

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication Theory)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	関 美雪
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	前期 月曜日 7時限
【授業の学習内容と心構え】 研修講師として、20年以上、企業の方々のビジネスマナーやコミュニケーションスキル向上の教育をしてきた教員が、この経験を活かして歯科衛生士のスペシャリストを目指すため接客・ビジネスマナー・コミュニケーションスキルを検定内容の知識と共に実技を習得する授業を行う。目指す職種の職場で求められるビジネスマナー・コミュニケーションスキルを社会人、また専門職として必要なスキルを常に考えながら受講して欲しい。検定合格のための知識また、学んだ知識を実際に実習をとうして学ぶ授業があるために、遅刻欠席はなるべくないように注意して授業に臨んでほしいです。							
【到達目標】 円滑な人間関係の構築やビジネスマナーを含む社会的スキル向上を目標とする。また、コミュニケーションは、の種類として、感情、意思、思考、知識など様々ありますが、よりよい感情の表現方法・感情コントロール法や伝える能力を習得することを目標とすると共に、コミュニケーションスキルアップ検定合格を目標とします。							
【使用教科書・教材・参考書】 プリント・資料・クレヨン(色鉛筆)・コミュニケーションスキルアップ検定テキスト				【授業外における学習】 授業で習得した知識や技術を日常的に活用する。また、習得した知識についてクラス内で討論するなどして復習する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 コミュニケーションの基本的知識と対話スキル 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 コミュニケーションのしくみを理解して話す・聞くのスキルアップの方法について説明出来る。第一印象の重要性(メラビアンの法則=3Vの法則)理解して人に説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 人間関係構築の基本と表現方法(個人場面) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 挨拶の意味と挨拶と自己紹介のコツを習得(演習)する。言語によるコミュニケーションの取り方・自己主張スキルの向上について説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 人間関係構築の基本と表現方法(仕事場面) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 仕事の基本「報・連・相」の重要性を理解する。伝わる話し方(交渉、説得)効果的なプレゼンテーションの方法を具体的に実施できるまでにする。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 中間試験・アンガーマネジメントを身に着ける 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中間試験(40点)合格出来るようにする。自己理解、探索の方法と怒りの管理出来るようにする。アンガーマネジメントの仕組みを人に説明できるようにする。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 社会的スキル(ビジネスマナーを身に着ける①) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ベーシックなマナーについて挨拶・敬語・電話対応の基本を把握出来るようにする。人に示し実施できるようにする。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 社会的スキル(ビジネスマナー)を身につける② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 訪問・名刺交換・謝罪の仕方について把握して人に示せる。サービスマインドの心得について熟考しながら実施できるようにする			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 社会的スキル実践(文書作成)とサービスマインド 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 3つのサービスの基本的要素とサービスマインドの実際について理解する。人に説明でき実施できるようにする。 ●検定対策としてテストを実施し理解度をはかる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 定期試験に合格する(60点)定期試験・修了後の解答解説・理解できなかった問題を抽出して、理解できていなかった点について再度検討して理解する。			【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で確認した知識の理解や定着度を確認する。中間試験(40点)・定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準じます。			
【特記事項】 授業内で指示した重要事項は、必ず記述(メモ)する。実習・演習についての振り返りは必ずシートに記入する。							

科目名 (英)	キャリアデザインⅢ (Career Design Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	高松 富佐子
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 6時限
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部						
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験を積んだ教員が授業を行う。 臨床経験、社会経験から得た知識や情報を共有することで、早期に就職・資格取得における課題を学生自らが発見し、対策する力を身につけて欲しい。 年齢を問わず、歯科衛生士として働く事の意義や社会人としてのマナー、人への接し方を見直す機会にもして欲しい。							
【到達目標】 臨床の場で学んだことを振り返り、自分の課題発見を行う。自己理解と他者理解深め、協働するために基礎を学ぶ。 将来、歯科衛生士になった際のキャリアをデザインする。							
【使用教科書・教材・参考書】 就職活動マニュアル、新社会人の基礎力109 臨床実習要領、その他配布資料				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】1年の行動計画 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 就職、実習、資格取得における1年の行動計画と目標立てる			9	【授業単元】中間試験振り返り 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 中間試験を振り返り、試験後に何が必要かを考え実践できる		
2	【授業単元】学習方法の振り返り 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自身の学習の振り返りをし、勉強の習慣を身につける			10	【授業単元】学習方法の実践② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 必要な知識を身につけ、これからのスケジュール管理を考え、そのために必要な勉強法を再検討する		
3	【授業単元】就職活動準備① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 求人票の見かた			11	【授業単元】就職活動準備③ 身だしなみについて 【授業形態】講義・演習 【到達目標】		
4	【授業単元】学習方法の選定 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自身の認知特性にあった勉強方法を検討、計画を行う			12	【授業単元】就職活動準備④ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 履歴書を記入するための準備を行う 自分の経歴をまとめる		
5	【授業単元】就職活動準備② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 就職先選びのポイント			13	【授業単元】就職活動準備⑤ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 履歴書を記入するための準備を行う 長所・短所・自己PRを考える		
6	【授業単元】学習方法の実践 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 検討、計画した勉強方法の実践 何が必要かを考え実践できる			14	【授業単元】臨地実習Ⅲ・Ⅳ期に向けて 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 臨地実習準備		
7	【授業単元】学習方法の評価 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 実践した内容の振り返り、評価を行う			15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 6割以上の正答を目指す		
8	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 模試からの出題で6割以上の正答を目指す			【評価について】 【中間試験】 過去に受けた模擬試験より出題、提出物で評価 【定期試験】 過去に受けた模擬試験より60問出題、提出物で評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	キャリアデザインⅢ (Career Design Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	高松 富佐子
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 6時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験を積んだ教員が授業を行う。 学業と社会生活を両立したことにより身につけたセルフマネジメントと歯科衛生士として必要なものは何かを理解し、授業に望んで欲しい。							
【到達目標】 自己理解と他者理解深め、協働するために基礎を学ぶ。 臨床の場で学んだことを振り返り、自分の課題発見を行う。 将来の歯科衛生士像を明確にする 資格取得に向けて勉強の計画・実行・振り返りを繰り返し、学習方法の習得をめざす。							
【使用教科書・教材・参考書】 就職活動マニュアル、新社会人の基礎力109 臨床実習要領、その他配布資料				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 臨床実習の振り返り 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臨床実習Ⅲ・Ⅳ期を振り返り、できたこと、できなかったことを意識化し、卒業後現場での目標を意識できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯科衛生士としての働き方 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 一般歯科、専門分野、病院、保健センター、企業など希望の分野で働く為に必要な知識やスキルを知る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 コミュニケーション心理学 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 臨床現場で役立てるためのコミュニケーションを考え、実践する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 過去に取り組んだ模試より出題、提出物にて評価				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 学習方法の振り返り 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 自身の学習の振り返りをし、必要なことは何か発見できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 学習方法の実践① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 実践した内容の評価を行う				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】 Ⅲ期の実習準備		
7	【授業単元】 学習方法の実践② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 必要な知識を身につけ、これからのスケジュール管理を考え、そのために必要な勉強法を再検討する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 過去に取り組んだ模試より出題、提出物にて評価				【評価について】 【中間試験】 過去に受けた模擬試験より出題、提出物で評価 【定期試験】 過去に受けた模擬試験より60問出題、提出物で評価		
【特記事項】							

科目名 (英)	衛生行政・社会福祉学 (Health administration・Social welfare)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	有川量崇 田口千恵子
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 6・7時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 衛生行政・社会福祉を学んだ教員が実社会の経験も踏まえ、歯科衛生士をめざす学生の皆さんにわが国の法制度を習得してもらうことを目的に講義を進める。歯科衛生を取り巻く法律・制度などの変化は著しい。歯科医療を安定した形で安全に国民に提供するには、法制度の見直しと円滑な実施ができるような行政上の諸制度が必要となっている。そのため、歯科衛生士には法制度の変化を常に敏感に理解、認識することが求められていることを意識し授業に臨んでいただきたい。							
【到達目標】 歯科衛生士として必要な法・制度を学び、医療人として社会における役割と責任について理解し、修得することを目的とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科衛生士と法律・制度				【授業外における学習】 授業前には教科書を読み、法律用語などについて理解を深めること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 衛生行政について 法制度の重要性について 【授業形態】 講義 【到達目標】 法治国家における法・制度の成り立ちと重要性に触れ、衛生行政の目的を理解し、その組織と所掌内容を把握する。			9	【授業単元】 医療保険制度について 【授業形態】 講義 【到達目標】 国民皆保険であるわが国の社会保険制度の概要と仕組みを理解する。		
2	【授業単元】 地域保健法 健康増進法 口腔保健法 高齢者医療確保法 【授業形態】 講義 【到達目標】 地域歯科保健活動を詳細に把握し、各市町村での保健活動がどのように変わってきたか、その状況を理解する。高齢者医療確保法における特定健診・特定保健指導を把握し、後期高齢者医療制度について理解を深める。			10	【授業単元】 国民医療費について 医療経済について 【授業形態】 講義 【到達目標】 国民医療費や医療経済について、歯科保健と関連させて理解する。		
3	【授業単元】 母子保健法 学校保健安全法 食育基本法 【授業形態】 講義 【到達目標】 妊産婦、乳幼児の保健サービスについて理解し、歯科衛生士として従事する場合の具体的役割について理解する。幼稚園、学校における歯科保健教育活動の実際について理解する。			11	【授業単元】 歯科衛生士法Ⅰ 歯科衛生士法の成り立ち 目的 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科衛生士法の経緯・概要について理解する。		
4	【授業単元】 医療法について 医療計画について 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療の理念とともに医療施設を規定した医療法について理解する。			12	【授業単元】 歯科衛生士法Ⅱ 免許 資格 業務 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科衛生士法の身分法としての、免許取得より実務に至るまで把握する。		
5	【授業単元】 障害者総合支援法 食品衛生法 労働安全衛生法 感染症法 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害者総合支援法を把握する。食品衛生法等の健康食品等に関連する規定について理解する。労働安全衛生法の目的、安全管理体制を理解する。感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の目的を理解する。			13	【授業単元】 歯科医師法 歯科技士法 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科医師法、歯科技士法の関連医療従事者身分法について学習し、歯科衛生士との業務連携について理解する。		
6	【授業単元】 介護保険法 地域包括ケア 【授業形態】 講義 【到達目標】 介護保険法の制定により地域で実施されるようになった、介護予防事業について、歯科保健と関連させて理解する。			14	【授業単元】 歯科医療と関わる医療関係者について 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科医療と関わる医療関係者について、法律とともに理解する。		
7	【授業単元】 社会保障制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会保障制度や生活保護、児童福祉等の社会福祉制度について理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。		
8	【授業単元】 薬事衛生法規 中間試験 【授業形態】 【到達目標】 薬事に関する法規について理解する。			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:多肢選択式、記述式による筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:多肢選択式、記述式による筆記試験 最終評価は中間と定期の合計100点満点で行う。			
【特記事項】 資料を配布するが教科書は必ず持参すること。							

科目名 (英)	高齢者歯科学 (Dental Care for Aged)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	羽村 章
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 6・7時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
大学院で誤嚥性肺炎の予防に関する研究を行った後に、大学の附属病院にて高齢者および障害児・者に対する摂食嚥下リハビリテーションや訪問診療に従事する教員が担当する。臨床において高齢者と接するうえで必要な知識や技術を身につけ、高齢患者に寄り添った対応ができる医療者を目指すための授業を行う。日本における高齢者を取り巻く環境や社会と歯科医療に関連する法律や施設に関する知識に加えて高齢者の生理的および心理的变化に関する知識などを臨床現場の実情を踏まえて学んでいく。日常生活においても高齢者と接することも多くあるため、授業で身につけた知識や経験を実際の臨床現場でも大いに役立ててほしい。							
【到達目標】							
高齢者特有の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、高齢者に対する口腔疾患の予防法、治療に対する介助法を考える。また、在宅や施設内の要介護高齢者に対する歯科の関わりを学び、歯科衛生士として必要な知識と役割を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第三版 末永書店 配布資料				授業で習得した知識を参考に臨床で高齢者に適した対応を行い、フィードバックを自己で行うことによって知識を深める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 高齢者歯科学において学ぶ内容の概要を知る 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 高齢者歯科学の概要を説明する 高齢者歯科学を学ぶ目的を述べる 高齢者の定義を述べる 日本における高齢者について説明する			9	【授業単元】 摂食機能の発達から減退までを理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食機能発達過程を説明する 摂食機能の発達期の障害を述べる 加齢と摂食機能の関係を列記する		
2	【授業単元】 高齢者の特徴を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 高齢者の身体的特徴を述べる 高齢者の心理的特徴を述べる 高齢者の社会的特徴を述べる 高齢者との接し方を説明する			10	【授業単元】 摂食嚥下のしくみとその障害について理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食嚥下障害の原因を述べる 摂食嚥下障害の症状を述べる 摂食嚥下機能の評価を述べる		
3	【授業単元】 高齢者の口腔内の実態と加齢による変化を知る 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 高齢者の口腔内の実態を述べる 高齢者の口腔内の加齢変化を述べる 高齢者の歯の加齢変化を述べる 加齢による口腔機能の低下を述べる			11	【授業単元】 リハビリテーションについて理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 リハビリテーションについて理解する 摂食嚥下リハビリテーションの意義を述べる 摂食嚥下リハビリテーションの手技を具体的に述べる		
4	【授業単元】 高齢者の口腔疾患について理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 加齢に関連する口腔疾患を述べる 口腔疾患の原因を述べる 口腔疾患への対応を述べる			12	【授業単元】 訪問診療の実態を知る 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 訪問歯科診療の意義を説明する 訪問指導の留意点を述べる 要介護者と介護者の接し方について述べる		
5	【授業単元】 高齢者によくみられる全身疾患について理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科治療について注意が必要な疾患を述べる 認知症患者への対応について説明する 介護者への対応について説明する			13	【授業単元】 高齢者を取り巻く社会の仕組みと歯科衛生士の役割を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 介護保険制度について説明する 介護保険と歯科との関わりを説明する 高齢者に対する歯科衛生士の役割を述べる		
6	【授業単元】 脳血管障害とその後遺症がある患者への対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 脳血管障害について述べる 脳血管障害の後遺症を説明する 脳血管障害後遺症のある患者への対応について説明する			14	【授業単元】 老人施設における歯科衛生士の役割を認識する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 老人施設を列挙する 各老人施設の特徴を述べる 老人施設を支える専門職について説明する		
7	【授業単元】 口腔ケアについて理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 口腔ケアの定義を述べる 口腔ケアの意義を説明する 高齢者の状態を把握する指標を述べる 口腔ケアの方法を具体的に説明する			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の前半の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する			【評価方法について】 【中間試験】:40点 筆記試験:選択問題、記述問題 【定期試験】:60点 筆記試験:選択問題、記述問題 中間試験と定期試験の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に順ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	障害者歯科学 (Special needs dentistry)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	亀岡 亮
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 6・7時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 教員紹介：日本小児歯科学会専門医、日本障害者歯科学会認定医。日本歯科大学附属病院小児歯科所属。千葉県千葉リハビリテーションセンターの非常勤 歯科医師も業務し、小児歯科、障害者歯科に従事している。 医療の進歩が目覚ましい現代において、障害を持つ方も数も多くなることが予測されます。障害を持つ方への歯科治療は考慮することも多く、治療が必要にならないよう予防 がとて大切です。歯科衛生士が大いに活躍できる分野なので、一つのビジョンとして将来に役立ててもらえればと思います。							
【到達目標】 歯科衛生士の障害者歯科における役割を理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 『最新歯科衛生士教本 障害者歯科』全国歯科衛生士教育協議会 監修(医 歯薬出版株式会社)・配布資料				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 障害者歯科の特性と役割 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害を有する患者に対する歯科診療を安全に 行うために、障害者歯科の特性と役割を理解する。			9	【授業単元】 行動調整と歯科診療 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者に安全な歯科治療を提供するために、障害別に全身 状態に配慮した行動調整法と歯科診療補助方法を理解する。		
2	【授業単元】 障害者の歯科診療1(知的能力障害) 【授業形態】 講義 【到達目標】 知的能力障害を有する患者に対応するために、 特徴と歯科治療における留意点を理解する。			10	【授業単元】 障害者歯科における歯科衛生士の役割 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者に安全で円滑な歯科治療を提供するために、歯科診 療補助時の留意点を理解する。さらに、口腔疾患を予防するた めに、それぞれの疾患の特徴に合わせた口腔ケアの具体的方 法を理解する。		
3	【授業単元】 障害者の歯科診療2(脳性麻痺・その他身体障害) 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療に おける留意点を理解する。			11	【授業単元】 摂食嚥下障害への対応1 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者の摂食・嚥下障害に対応するために、その評価方法 とリハビリテーションの方法について理解する。		
4	【授業単元】 障害者の歯科診療3(脳性麻痺・その他身体障害) 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療に おける留意点を理解する。			12	【授業単元】 摂食嚥下障害への対応2 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者の摂食・嚥下障害に対応するために、その評価方法 とリハビリテーションの方法について理解する。		
5	【授業単元】 障害者の歯科診療4(ダウン症候群・その他遺伝子疾患) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ダウン症候群・その他遺伝子疾患を有する患者に対応するた めに、特徴と歯科治療における留意点を理解する。			13	【授業単元】 授業内容の総まとめとフィードバック 【授業形態】 講義 【到達目標】 学習内容を整理・再確認し、歯科衛生士として必要な障害者歯 科領域の知識を習得する。		
6	【授業単元】 障害者の歯科診療5(発達障害1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療に おける留意点を理解する。			14	【授業単元】 問題演習 【授業形態】 講義 【到達目標】 問題演習を通じて、学習内容の再確認をする。		
7	【授業単元】 障害者の歯科診療6(発達障害2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療に おける留意点を理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法：選択・マークシート形式 定期試験(60点満点) 実施方法：選択・マークシート形式、記述問題			
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅳ (Prophylactic TreatmentⅣ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	石見 杏奈/高松 富佐子
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 金曜日6・7限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験を積んだ教員が授業を行う。マネキン実習ではなく、人の口腔内を触る責任感を感じながら実習に望んで欲しい。 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門知識、技術および態度を習得してほしい。 歯科衛生士としてのやりがいや各処置の重要性を見つけ、医療従事者として必要なことは何かを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業のため、遅刻・欠席はできるだけせず、予習・復習をしっかりとって授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生のアセスメント・診断・計画立案・介入・評価そして記録ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 PMTC 【授業形態】 講義 【到達目標】 1年間の科目の目的とスケジュールを把握する PMTCの目的を説明できる PMTCの手順を説明できる PMTCに必要な器材を列挙できる			9	【授業単元】 サブソニックブラシシステム(歯面清掃器) 【授業形態】 演習 【到達目標】 サブソニックブラシシステムの原理を説明できる 口腔内でサブソニックブラシシステムの操作ができる 患者に配慮した施術ができる		
2	【授業単元】 PMTC 【授業形態】 演習 【到達目標】 マネキン上でPMTCの操作ができる			10	【授業単元】 サブソニックブラシシステム(歯面清掃器) 【授業形態】 演習 【到達目標】 口腔内でサブソニックブラシシステムの操作ができる 患者に配慮した施術ができる		
3	【授業単元】 PMTC 【授業形態】 演習 【到達目標】 口腔内でPMTCの操作ができる 術式を把握し、円滑に進めることができる 患者に配慮した施術を行うことができる			11	【授業単元】 小窩裂溝充填塞(シーラント) 【授業形態】 講義 【到達目標】 小窩裂溝充填塞の目的を説明することができる 手順を説明することができる 使用器材を列挙することができる		
4	【授業単元】 PMTC 【授業形態】 演習 【到達目標】 口腔内でPMTCの操作ができる 術式を把握し、円滑に進めることができる 患者に配慮した施術を行うことができる			12	【授業単元】 小窩裂溝充填塞(シーラント) 【授業形態】 演習 【到達目標】 マネキン上で小窩裂溝充填塞ができる		
5	【授業単元】 歯面清掃器(エアポリッシャー・サブソニックブラシシステム) 【授業形態】 講義 【到達目標】 エアポリッシャーの特徴(目的、使用器材、禁忌症)を説明することができる サブソニックブラシシステムの特徴を説明することができる。			13	【授業単元】 歯科衛生アセスメント・歯科衛生介入① 【授業形態】 演習 【到達目標】 主観的情報・客観的情報を収集することができる 口腔内の状態に合った介入方法を選択できる SOAPを用いて簡潔かつポイントを押さえた業務記録の記入ができる		
6	【授業単元】 エアポリッシャー(歯面清掃器) 【授業形態】 演習 【到達目標】 マネキン上でエアポリッシャーの操作ができる			14	【授業単元】 歯科衛生アセスメント・歯科衛生介入① 【授業形態】 演習 【到達目標】 主観的情報・客観的情報を収集することができる 口腔内の状態に合った介入方法を選択できる SOAPを用いて簡潔かつポイントを押さえた業務記録の記入ができる		
7	【授業単元】 エアポリッシャー(歯面清掃器) 【授業形態】 演習 【到達目標】 エアポリッシャー操作の注意点を説明できる 口腔内でエアポリッシャーの操作ができる 患者に配慮した施術ができる			15	【授業単元】 定期試験/解説 【授業形態】 筆記/講義 【到達目標】 わからない問題を洗い出し、復習することができる		
8	【授業単元】 エアポリッシャー(歯面清掃器)/中間試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 エアポリッシャー操作の注意点を説明できる 口腔内でエアポリッシャーの操作ができる 患者に配慮した施術ができる わからない問題を洗い出し、復習することができる			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 筆記 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記			
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科衛生学実践 (Dental Hygiene Practice)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	内田 弥生
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 6・7時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士としての臨床経験をもつ教員が授業を担当する。歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで学んだ内容を基礎に就職後のために知識を深め、技術を磨く。口腔疾患を予防し、人々の口腔内の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を修得する。チームで業務を行う意識とイニシアチブが術者にあることを意識し取り組んでください。自ら学び、成長させる為、積極的にアドバイスをもらってください。							
【到達目標】 歯科予防処置論で学んだ内容を基に知識を深め、技術を磨く 歯科医療・チーム医療の一員としての歯科衛生士の役割を理解する 人々のニーズに合った支援が行えるよう、歯科衛生アセスメント・診断、計画立案、介入、記録、評価ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生士のための齶齶予防処置法 第2版				【授業外における学習】 1・2年生で学習したものの、臨地実習で身につけたものが土台となった授業です。 技術はもちろんですが、知識も高めて(復習)して授業に臨んでください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】 歯科衛生アセスメント 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 患者実習の術式から復習したい項目について相互実習を行うため個々に準備をする その項目について、実技試験の評価を基に自己評価できる			17・18	【授業単元】 歯科衛生介入 【授業形態】 演習 【到達目標】 患者の口腔内を観察診査した上で、短期目標に沿った術式で改善できる 患者説明、指導ができる		
3・4	【授業単元】 歯科衛生アセスメント(スタディモデル作成) 【授業形態】 演習 【到達目標】 スタディモデル作成の為の印象採得ができる 実技試験の評価を基に自己評価できる			19・20	【授業単元】 患者実習リハーサル 【授業形態】 演習 【到達目標】 患者実習の流れについて東歯リハーサルを行う 自分の苦手を理解手技の確認ができる 評価表を基に自己評価できる		
5・6	【授業単元】 歯科衛生アセスメント(スタディモデル作成) 【授業形態】 演習 【到達目標】 スタディモデル作成の為の印象採得ができる 実技試験の評価を基に自己評価できる			21・22	【授業単元】 患者実習① 口腔内写真 【授業形態】 演習 【到達目標】 患者情報となる口腔内写真が適切な構図で撮影できる 撮影時の注意事項を列挙し、実践ができる		
7・8	【授業単元】 歯科衛生アセスメント(口腔内写真) 【授業形態】 演習 【到達目標】 口腔内写真(5枚法)を規格に合わせて撮影することができる 実技試験の評価を基に自己評価できる			23・24	【授業単元】 患者実習② ブローピング 【授業形態】 演習 【到達目標】 患者情報となるブローピングを適切な操作で実践できる 数値について正確に測定できる		
9・10	【授業単元】 口腔内写真の所見 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 口腔内写真やデータを基に患者を想像することができる 必要な歯科予防処置を考え、歯科衛生過程のサイクルをどのように回すのかをチームで考えることができる			25・26	【授業単元】 患者実習③ スケーリング 【授業形態】 演習 【到達目標】 術式の流れに沿って処置ができる 適切な声掛け等で安心できる処置を提供する 縁上ブラーク、歯石の除去ができる		
11・12	【授業単元】 歯科衛生アセスメント(口腔内診査) 【授業形態】 演習 【到達目標】 患者実習の術式から復習したい項目について相互実習を行うため個々に準備をする その項目について、実技試験の評価を基に自己評価できる			27・28	【授業単元】 患者実習④ TBI 【授業形態】 演習 【到達目標】 口腔内の状況を説明し、適切な指導ができる 患者のモチベーションに合わせた言葉選びと非言語コミュニケーションを実践できる		
13・14	【授業単元】 スタディモデルの検討とTBI検討 【授業形態】 演習 【到達目標】 患者の口腔内の特徴について述べる事ができる ブラッシング時の当て方等の特徴を捉え、客観的に説明・指導ができる			29・30	【授業単元】 症例まとめ/記述試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 担当患者についての症例をまとめることができる 歯科衛生過程の手順を理解し、情報の分類ができる		
15・16	【授業単元】 歯科衛生診断と歯科衛生計画立案 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科衛生診断をし、原因追究ができる 長期目標を立て、短期目標を達成するための道筋を立てることで歯科衛生過程の理解を深め実践できる			【評価について】 患者実習の定期試験 70点満点 定期試験 30点満点 中間:患者実習①②で40点満点 定期:患者実習③④+記述試験で60点満点			
【特記事項】 実習時の身だしなみについて厳しく指導します。 実習生として適切な態度で受講してください。							

科目名 (英)	栄養指導 (Nutrition Guidance)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	有川量崇 田口千恵子
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 6・7時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科医師と歯科衛生士の資格を有し、臨床経験のある講師が、歯科と栄養学の関係について授業を担当する。健康増進法、食育基本法、健康日本21(第2次)などにおいて、生活習慣病が重要な課題であり、その対策をうたっており、これらの施策を理解する。また、国民の栄養状態や食事摂取基準を説明できるようにする。歯科疾患と栄養、健康の関連についても理解する。							
【到達目標】 口腔の健康は食事をするためには必要不可欠であり、いかにバランスよく適度に栄養を摂取するかについて説明できるようになる。栄養の基礎から学び、栄養に関する正しい知識を身につけ、説明できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 人体構造と機能2『栄養と代謝』				【授業外における学習】 授業で修得した知識を参考にして、日常摂取する食品の選択、食品に表示されている項目の内容について、不明な点は調べる、次回授業で質問するなど行う。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】糖質の役割について タンパク質の役割について 【授業形態】講義 【到達目標】 食品から摂取している糖質、タンパク質について、生体での役割を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】食品から摂取している脂質について、生体での役割を理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 食品から摂取している脂質について、生体での役割を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】ビタミン・ミネラルの役割について 水と食物繊維について 【授業形態】講義 【到達目標】 ビタミン、ミネラルの種類および個々の働きについて理解する。水と食物繊維についても理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】栄養素の消化と吸収について 中間試験 【授業形態】講義 【到達目標】 栄養素の消化と吸収を理解する。 これまでの学修項目について到達度を確認する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】食事摂取基準について 基礎代謝について 【授業形態】講義 【到達目標】 食事摂取基準とは何かを知り、推定エネルギー必要量の求め方、摂取量の評価方法、基礎代謝について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】食生活と健康について 【授業形態】講義 【到達目標】 現在の食生活状況を理解する。食生活と健康との関連について把握し、健康の維持・増進を進めるための栄養指導の必要性について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】ライフステージ別の栄養と調理について 【授業形態】講義 【到達目標】 乳幼児期・学童期・成人期・高齢期の栄養と調理について理解を深める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。				【評価方法について】 筆記試験(多肢選択式、記述式)により、到達度を確認する。中間試験40点と定期試験60点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】 各授業における内容について、該当部の教科書を予習し、授業中に配布されたプリントには書き込みを行い、教科書、プリント共に活用し、復習する。							

科目名 (英)	口腔ケア (Oral Health Care)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	小野 紗也加
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 6時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
<p>歯科医師で、口腔外科認定医の講師が授業と担当する。口腔ケアは一般によく知られている用語ですが、幅広い内容を含んでいます。この授業だけでなく他の科目の知識も必要です。口腔ケアを理解し、正しく実践できるよう、各回の授業内容を他の科目と関連付けて整理するようにしましょう。</p>							
【到達目標】							
歯科衛生士に必要な口腔ケアの基礎知識を修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
1. 日本口腔ケア学会 編, 口腔ケア基礎知識, 永末書店 2. 日本口腔ケア学会 編, 日本口腔ケア学会認定資格標準テキスト(3級・4級・5級), 医歯薬出版				認定資格取得のため教材を使用した自習が望ましい。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	基礎知識 講義		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
1	口腔ケアの定義・口腔の仕組みを説明できる。口腔の観察のポイントを説明できる。口腔ケアの目的を説明できる。口腔ケアの方法を説明できる。口腔ケアにおけるチームケアの重要性を説明できる。						
2	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	歯磨き・うがい 講義		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	口腔ケアに使用する用具を説明できる。自分で歯磨きできない人への対応について、うがいの方法、実施時の注意点を説明できる。含嗽薬の種類と成分、うがいできない人のケアの方法、高齢者・子供の嗽の方法について説明できる。						
3	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	義歯・口臭 講義		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	義歯使用者の対応法について説明できる。義歯の種類、着脱法、管理について説明できる。口臭のある人の対応や口臭の原因、また口臭のある人の口腔ケアについて説明できる。						
4	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	中間試験 講義		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	口腔ケアの基礎知識、実践について説明できる。						
5	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	体に障害や病気のある人・口腔乾燥 講義		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	体に障害がある人、様々な病気を有する人への対応を説明できる。口腔乾燥の原因、口腔乾燥を呈する疾患、口腔乾燥のある人の対応について説明できる。						
6	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	むし歯(う蝕)と歯周病・摂食嚥下障害 講義		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	むし歯(う蝕)と歯周病の予防について説明できる。むし歯の成因、予防法、歯周病とは、歯周病の予防法、歯周病と生活習慣について説明できる。摂食・嚥下障害者の口腔ケアについて説明できる。摂食・嚥下障害の検査法、摂食・嚥下障害がある人の対応法について説明できる。						
7	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	出血・在宅・その他 講義		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	歯肉出血の原因について説明できる。口腔ケア時の歯肉からの出血の対応について説明できる。在宅高齢者の対応法を説明できる。在宅での口腔ケアの問題点と対応法、家族あるいは在宅介護者への指導法について説明できる。その他の特別な配慮が必要な方の対応法を説明できる。口腔機能の改善のための訓練法、口腔ケア実施中の偶発事項への対応法について説明できる。						
8	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	定期試験、解答解説 講義		【評価方法について】			
8	口腔ケアの基礎知識、実践について説明できる。			中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅳ (Assisting for Dental PracticeⅣ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	川村 梓
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 6・7時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験を積んだ教員が授業を行う。 歯科診療における患者、術者双方の安全の確保を前提とした診療の流れに則した歯科診療補助を行うための知識・技術を修得する。							
【到達目標】 歯科診療における患者、術者双方の安全の確保を前提とした治療に関する知識、技術を取得し臨床の場で対応できる							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本第2版 クインテッセンス出版株式会社				【授業外における学習】 実習前には講義の内容を確認し、何を何のために実習するのかを把握する 実習後は教科書、配布プリントを見直し、実習の内容を復習することが望ましい			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1.2	【授業単元】 オリエンテーション/口腔内写真撮影① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 今までに修得した知識の整理ができる 口腔内写真用カメラの使い方がわかる 口腔内写真撮影法の基本的な知識を習得する						
3.4	【授業単元】 口腔内写真撮影② 【授業形態】 演習 【到達目標】 口腔内写真撮影法の構図を理解し、患者に配慮して撮影できる						
5.6	【授業単元】 口腔内写真撮影③ 【授業形態】 演習 【到達目標】 口腔内写真撮影ができる 写真の分析、資料の作成ができる						
7.8	【授業単元】 中間試験/患者介助(小児)、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 6回までの到達度の確認・復習 乳幼児の全身、精神的特徴を理解し医療の視点だけではなく、 生活者の視点に立った対応を考える						
9・10	【授業単元】 患者介助(障害者・高齢者) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 高齢者・障害者の全身、精神的特徴を理解し医療の視点だけでなく、 生活者の視点に立った対応を考える 訪問指導の留意点を理解する						
11.12	【授業単元】 患者介助(バイタルチェック・一次救急救命) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 全身についての基礎知識を理解し、歯科診療上の留意点に注意した 患者対応を行う バイタルを正確に測定できる 正常値を理解している						
13.14	【授業単元】 全身疾患と内服薬 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 様々な疾患の特徴を理解する 歯科診療で注意すべき内服薬を理解し、適切な対応ができる						
15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標の到達度の確認を行い、習熟度を判断する				【評価について】 評価は実技試験、筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識、 技術の理解、定着度を確認する。 試験は中間試験(実技+筆記40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で 評価する。評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】 講義毎に使用する教科書をアナウンスするので確認し忘れ物がないようにすること 提出物は提出期限を厳守すること 疑問に思ったことは各自で調べ次に付けること							

科目名 (英)	審美歯科 (Cosmetic Dentistry)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	島田 星羅
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 6・7時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師として臨床経験を有する講師が授業を担当する。ホワイトニングに関する知識を習得することで、ホワイトニングの特徴をより学術的に患者に対して説明することが出来るようになる。セラミック修復の特徴を習得することで、審美的な観点だけでなく材料的な優位性を踏まえて患者へ説明ができる。実際にホームホワイトニングの治療過程を体験することで、患者の立場に立った説明ができる							
【到達目標】 審美歯科におけるホワイトニングの特徴、注意点および術式を理解する。 セラミック修復の特徴について、材料学、補綴学、保存修復学の観点から理解する。 ボトックス治療の歴史、適応症、治療の流れについて理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 下顎石膏模型(できれば硬質石膏なければ普通石膏でも可)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 ホワイトニングについて理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 患者への心理やニーズを理解し、オフィスホワイトニングの種類、特徴を理解する						
2	【授業単元】 ホームホワイトニングについて理解する 【授業形態】 演習 【到達目標】 ホームホワイトニングの使用法、背景、患者の心理やニーズをクイズ形式で理解する						
3	【授業単元】 カスタムトレー作成 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ホームホワイトニングのカスタムトレーの作成方法を理解する						
4	【授業単元】 カスタムトレー作成 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ホームホワイトニングのカスタムトレー作成方法を理解する。 ホワイトニングについて中間試験						
5	【授業単元】 セラミックを理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 光学印象の実践、CAD/CAMを理解し、治療の流れを把握する、セラミックの種類について理解する						
6	【授業単元】 シェードテイキングについて理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 技工士サイドからみたシェードテイキングについて理解する						
7	【授業単元】 セラミックを理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 セラミックの特徴や利点、欠点、治療の流れを理解する						
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 ボトックス治療の適応症や方法について理解する ボトックス、セラミックについて定期試験				【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記や選択問題 定期試験(60点満点) 実施方法:○×問題など		
【特記事項】							

科目名 (英)	摂食嚥下機能訓練 (Therapy for Dysphagia)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	三浦 慶奈
学科・専攻	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	月曜日 7時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 臨床現場で、歯科衛生士と一緒に摂食嚥下リハビリテーションに携わる歯科医師が授業を担当する。 近年では高齢者社会に伴って訪問診療が急速に普及し、そういった場で活躍できる歯科衛生士の需要が増えてきている。この授業では、歯科衛生士として必要な摂食嚥下機能およびリハビリテーションに対する基本的な知識と技術を学び、将来小児から高齢者までの摂食嚥下障害患者に対応できる能力を習得して欲しい。							
【到達目標】 摂食嚥下障害患者に対応できる摂食嚥下機能およびリハビリテーションについて説明ができ、実際の現場で対応できる知識を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション(第2版)				【授業外における学習】 教科書で予習し、授業プリントを用いて復習することが望ましい			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 摂食嚥下リハビリテーション総論 【授業形態】 講義 【到達目標】 摂食嚥下リハビリテーションとは何かについて説明ができる 正常な嚥下機能および5期について説明ができる 摂食嚥下障害の原因と分類について説明ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 摂食嚥下に関わる構造と評価方法 【授業形態】 講義 【到達目標】 摂食嚥下に関わる構造と解剖について説明ができる 評価方法の分類と内容について説明ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 摂食嚥下リハビリテーションの分類と種類 【授業形態】 講義 【到達目標】 直接訓練について説明ができる 間接訓練について説明ができる 各々の訓練内容について説明ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 3回分の授業内容について理解ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 小児の摂食嚥下障害と対応 【授業形態】 講義 【到達目標】 正常発達の8段階について説明ができる 原因と特有の症状、指導内容について説明ができる 口腔機能発達不全症について説明ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 高齢者の摂食嚥下障害と対応 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳血管障害、パーキンソン病について説明ができる 口腔機能低下症について説明ができる 補綴装置について説明ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 摂食嚥下に関わる栄養と口腔ケア 【授業形態】 講義 【到達目標】 栄養ルートについて説明ができる 栄養の評価方法について説明ができる 口腔ケアの分類と方法について説明ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 3回分の授業内容について理解ができる				【評価方法について】 評価は筆記試験にて行い、中間試験(40点)と定期試験(60点)の点数から総合的に評価する。		
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科衛生総合演習Ⅰ(基礎科目系) (General dental hygiene exerciseⅠ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	高松 富佐子 他
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月～金曜日 6・7時限(時間割参照)
<p>【授業の学習内容と心構え】 基礎科目系においてのスペシャリストが国家試験合格に向けて、各科目ごとに国家試験対策のための授業を行う。 国家試験の出題基準や出題範囲、出題傾向について把握し、過去問題を反復することにより問題理解を深められるようにする。</p>							
<p>【到達目標】 国家試験の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答を導き出し解答能力を高めて国家試験に合格する。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	<p>【授業単元】解剖学(担当教員:岸重人) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>	17・18	<p>【授業単元】病理学(担当教員:辺見卓男) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>				
3・4	<p>【授業単元】解剖学(担当教員:岸重人) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>	19・20	<p>【授業単元】栄養学(担当教員:田口千恵子) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>				
5・6	<p>【授業単元】生理学(担当教員:石野竜平) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>	21・22	<p>【授業単元】生化学(担当教員:西山勝弘) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>				
7・8	<p>【授業単元】生理学(担当教員:石野竜平) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>	23・24	<p>【授業単元】公衆衛生学(担当教員:田口千恵子) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>				
9・10	<p>【授業単元】微生物学(担当教員:中西生美) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>	25・26	<p>【授業単元】公衆衛生学(担当教員:田口千恵子) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>				
11	<p>【授業単元】微生物学(担当教員:中西生美) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>	27・28	<p>【授業単元】衛生行政・社会福祉学(担当教員:田口千恵子) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>				
12・13	<p>【授業単元】薬理学(担当教員:筒井健機) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>	29・30	<p>【授業単元】衛生行政・社会福祉学(担当教員:田口千恵子) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>				
14	<p>【授業単元】薬理学(担当教員:筒井健機) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>		<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>				
15・16	<p>【授業単元】病理学(担当教員:辺見卓男) 【授業形態】講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。</p>		<p>【評価について】 模擬試験の合格ラインを基準に評価を行う</p>				
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科衛生総合演習Ⅰ(臨床科目系) (General dental hygiene exercise I)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	高松 富佐子 他
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月～金曜日 6・7時限(時間割参照)
【授業の学習内容と心構え】 臨床科目系においてのスペシャリストが国家試験合格に向けて、各科目ごとに国家試験対策のための授業を行う。 国家試験の出題基準や出題範囲、出題傾向について把握し、過去問題を反復することにより問題理解を深められるようにする。							
【到達目標】 国家試験の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答を導き出し解答能力を高め国家試験に合格する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【授業単元】 歯科臨床基礎(担当教員:星野有美) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			20・21	【授業単元】 歯周治療学(担当教員:石黒一美) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
3・4・5	【授業単元】 歯科矯正学(担当教員:岩根健大) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			22・23・ 24	【授業単元】 高齢者歯科学(担当教員:羽村章) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
6・7	【授業単元】 小児歯科学(担当教員:新見嘉邦) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			25・26	【授業単元】 障害者歯科学(担当教員:亀岡亮) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
8・9・ 10	【授業単元】 口腔外科学(担当教員:星野照秀) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			27・28	【授業単元】 歯科介護学(摂食嚥下機能訓練)(担当教員:齋藤貴之) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
11・12・1 3	【授業単元】 歯科補綴学(担当教員:佐藤貴映) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			29・30	【授業単元】 歯科介護学(義歯)(担当教員:齋藤貴之) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
14・15	【授業単元】 歯科保存学(担当教員:西川原総生) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
16・17	【授業単元】 歯科保存学(担当教員:西川原総生) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
18・19	【授業単元】 歯周治療学(担当教員:石黒一美) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。				【評価について】 模擬試験の合格ラインを基準に評価を行う		
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科衛生総合演習Ⅰ(歯科衛生士業務系) (General dental hygiene exerciseⅠ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	高松 富佐子 他
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月～金曜日 6・7時限(時間割参照)
【授業の学習内容と心構え】 主要3科におけるのスペシャリストが国家試験合格に向けて、各科目ごとに国家試験対策のための授業を行う。 国家試験の出題基準や出題範囲、出題傾向について把握し、過去問題を反復することにより問題理解を深められるようにする。							
【到達目標】 国家試験の出題傾向を知り、過去問題集を解く過程で解答を導き出し解答能力を高め国家試験に合格する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】 口腔衛生学(担当教員:一宮頼子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			17・18	【授業単元】 歯科予防処置論(担当教員:高松富佐子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
3・4	【授業単元】 歯科診療補助論(担当教員:川村梓) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			19・20	【授業単元】 口腔衛生学(担当教員:一宮頼子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
5・6	【授業単元】 歯科診療補助論(担当教員:川村梓) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			21・22	【授業単元】 歯科予防処置論(担当教員:高松富佐子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
7・8	【授業単元】 歯科保健指導論(担当教員:富澤麻友子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			23・24	【授業単元】 歯科予防処置論(担当教員:高松富佐子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
9・10	【授業単元】 歯科予防処置論(担当教員:高松富佐子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			25・26	【授業単元】 歯科保健指導論(担当教員:富澤麻友子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
11・12	【授業単元】 口腔衛生学(担当教員:一宮頼子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			27・28	【授業単元】 口腔衛生学(担当教員:一宮頼子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
13・14	【授業単元】 歯科保健指導論(担当教員:富澤麻友子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			29・30	【授業単元】 歯科診療補助論(担当教員:川村梓) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。		
15・16	【授業単元】 歯科予防処置論(担当教員:高松富佐子) 【授業形態】 講義 【到達目標】 出題傾向を把握し、過去問題を反復することにより問題の理解を深め、解答できるようになる。			【評価について】 模擬試験の合格ラインを基準に評価を行う			
【特記事項】							